

六斎念仏の歴史を紐解く

—伝統文化の継承について—

Inheritance of traditional culture

吉祥院小学校夏季教職員研修

日 時 2025(令和 7)年 8 月 21 日(木)10:00am~11:30am

会 場 吉祥院小学校 図書室

テーマ 六斎念仏の歴史を紐解く ~子ども六斎の活動~

キーワード:伝統文化、人権文化、継承活動

講 師 石田 房一(京都_文化研究企画代表)

朗 読 清水 美優(吉祥院六斎歴史研究会広報)

石 田 房 一

京都_文化研究企画



point !

1. 伝統文化の衰退と現状と課題
 - ・後継者不足 — 資金不足など
2. 京都の六斎念仏
 - ・重要無形民俗文化財 — 六斎奉納（映像）
3. 「吉祥院」地名の由来
 - ・菅原道真 — 菅原是善 — 菅原清公
4. 六斎念仏の歴史を紐解く
 - ・平安時代中期 — 空也上人（阿弥陀信仰）
5. 吉祥院六斎念仏のはじまりとその発展
 - ・吉祥院天満宮 — 獅子舞奉納・弔い念仏
6. 吉祥院六斎念仏と人権
 - ・奉納排除 — 差別に抗う — 伝説
7. 吉祥院六斎念仏の伝説
 - ・TV 出演（映像×2）
8. 吉祥院六斎念仏の継承活動
 - ・吉祥院六斎歴史研究会（獅子の如く）
9. 吉祥院子ども六斎会
 - ・こども六斎教室事業（文化庁）
10. 吉祥院六斎歴史資料展示室
 - ・京都市吉祥院いきいき市民活動センター
11. 差別との闘いが伝承を支えた

六斎念仏の歴史を紐解く —伝統文化の継承活動について—



1. 伝統文化の衰退と現状と課題

お疲れ様です。京都_文化研究企画の石田です。今日は吉祥院地域に伝承されている六斎念仏の歴史や、その担い手となる子ども六斎会の活動について紹介させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

お配りしている資料に「近現代史～吉祥院六斎念仏～」としてまとめてありますが、Point に沿って進めていきたいと思います。

まず始めの伝統文化の衰退と現状と課題について、多くの研究論文が出されています。その主な理由として挙げられているのが、少子高齢化に伴う、人口減少によって担い手となる後継者不足が深刻化しています。

伝統文化を継承するには、維持費、管理費が必要になりますが、そのための資金が不足しています。そして、価値観の変化として、伝統文化は古いもの、堅苦しいものというイメージを持つ若い人が増えています。

特に、地域の過疎化に伴い、地域コミュニティが弱体化し、伝統文化を支える基盤が失われています。こうした理由が挙げられています。

伝統文化を継承していくためには、関係

者だけでなく、地域社会全体で意識改革や新たな取り組みが求められています。

こうした問題は多くの伝統文化に共通する課題となっています。

京都の六斎念仏においても、後継者不足が一番の課題と言われています。

2. 京都の六斎念仏

京都の六斎念仏は、京都六斎念仏保存団体連合会に加盟する 15 団体の六斎講が国の重要無形民俗文化財に指定を受けています。2022 年には、国連教育科学文化機関ユネスコの無形文化遺産に登録されました。

貴重な文化遺産が吉祥院地域で受け継がれています。

吉祥院天満宮で六斎奉納が行われています。吉祥院六斎念仏の映像を見ていただきたいと思います。

※【映像】

・吉祥院六斎念仏

3. 「吉祥院」地名の由来

「吉祥院」の地名の由来が吉祥天女社に残されています。延暦 23 年、平安時代、今から 1221 年前に学問の神様で信仰されている菅原道真の祖父清公が遣唐使として唐へ向かう途中、暴風が起り、船が転覆しかけた際、吉祥天女に平安を祈ったところ、吉祥天女空中に現われ風雨が静まり、無事に遣唐使の任務を果たされました。

清公は、感激と喜びを胸に帰朝後、吉祥天女像を自ら刻まれ、吉祥天女社を建立し、そこに安置し、開眼供養されました。そして、ここを「吉祥院」と名付けたと伝わります。

吉祥天女像は、木製の立像で、高さが約 130 ㍺あります。室町時代の「応仁の乱」で焼けるのを恐れ、土の中に埋め、仮の天女像で供養されていました。

徐々に世の中も鎮まり、土の中から掘り起こし、本堂に戻され供養されています。今でも土の匂いがすると言われていますが、普段は、一般開帳されていませんが、2009 年に「吉祥院天女創建 1200 年祭」で一般開帳されています。

その前は、1953 年に一般に開帳されています。それ以前は、江戸時代に一度だけ開帳されたという記録が残っています。

この菅原清公の墳墓（墓石）が祥栄小学校の東側にあります。これまでは立ち入ることができませんでしたが、2013 年、墳丘に御影石が敷かれ整備されたことで、現在は立ち入ることが出来るようになっています。

そして、清公の四男つまり道真の父親是善の墓石も吉祥院高畑町の香泉寺にあります。高畑町はむかし東条と呼ばれて、東条六斎講が行われていました。

吉祥院地域には、菅原家ゆかりの歴史がありますが、地元の方も意外と知らない人が多いです。

4. 六斎念仏の歴史を紐解く

六斎念仏のはじまりは、平安時代、空也上人が民衆に「阿弥陀信仰」を広めるため、鉦や太鼓を叩き、踊り跳ねながら念仏を唱え



吉祥天女像



たのが起こりとされる。

これが後に、六斎日に行われたことから六斎念仏と呼ばれた。

六斎日とは、月のうちの「8・14・15・23・29・30」の6日をいい、前半の3日、後半の3日を三



空也上人
(六波羅蜜寺)

斎日と呼び、この日は悪鬼を鎮め、人々の幸福を祈る日とされ、心身を清め社会に奉仕した。

千年前、京のまちに疫病が流行り、多くの死者が出て人々は不安に陥り、その際、空也上人が托鉢を叩き、六斎日に念仏を唱え、人々の不安を取り除いたことから六斎念仏が生まれた。

江戸時代に入り、六斎念仏を行うには、免許を受け取る決まりがあり、その免許を与える権限は二つのお寺が持つようになる。

どちらかのお寺から免許を受けたかにより、その傘下となる仕組みがあった。

空也堂系に属する「芸能六斎」、千葉寺系に属する「念仏六斎」の二つの系統に形成れた。千葉寺の「念仏六斎」は、鉦を主体に念仏が唱えられ、「鉦講」と呼ばれ継承され、その中心的な役割を果たしているのが上鳥羽橋上鉦講中と言われる。

歌舞伎の要素を採り入れた空也堂の「芸能六斎」が主流となり、その代表的な存在が吉祥院六斎念仏と言われている。

元来、六斎念仏は供養念仏として始まったものが、次第に娯楽性を持つようになり、歌舞伎の要素を採り入れ、芸能六斎として発展する。

日本の古典芸能の歌舞伎や大道芸、旅芸人、猿回しなど、江戸時代の身分階層構造の

最下層に置かれた人たちの職業だった。江戸時代に「かぶき踊り」を始めた出雲の阿国は、身分階層構造の最下層に置かれた立場だった。仕事を選ぶ自由がない中、芸能を生業にし、四条河原に仮設の小屋で興行を始めたことから「河原者」「河原乞食」と差別的な蔑称で呼ばれた。

阿国は、島根県出雲大社の巫女で、出雲大社の修復のため寄附を募るため京都や各地で踊りを披露する。

その踊りが好評となり、京都の北野天満宮で踊りを披露し、その時に踊ったのが「かぶき踊り」と呼ばれるようになり、これが現在の歌舞伎につながっている。

出雲阿国像が四条大橋東北に建つその姿は、戦で羽織る陣羽織を着て、腰にひょうたんをぶら下げ、右手に扇子、左手に刀を担ぎ、顔を少し右上にし、その視線の先には京都「南座」がある。



出雲阿国像

阿国は、いつか南座の舞台上で踊ることを思い見つめている。

台座には、『かぶき踊りの姐、出雲の阿国、都に來りて、その踊りを披露し、都人を酔わせる』と詠われている。

歌舞伎の要素を採り入れ、「芸能六斎」として発展してきた吉祥院六斎念仏の演目は、発願から回向歌まで 19 の曲目で構成される。「焼香太鼓」は、特別曲として行われ、記念行事や六斎関係者が亡くなられた際、焼香代わりとして「焼香太鼓」が行われる。

5. 吉祥院六斎念仏のはじまりとその発展

吉祥院六斎念仏のはじまりは、平安時代後期、吉祥院天満宮の祭礼に獅子舞を奉納したという説と、もう一つは、安土桃山時代の「山崎の合戦」において、羽柴秀吉勢に敗れて、逃げ延びてきた明智光秀勢の残党が、吉祥院の地で息絶えたのを村の人たちが弔った二つの説が伝わる。

吉祥院地域には、明治、大正時代、吉祥院天満宮を囲むように 8 組の六斎講があり、この 8 組の六斎講が吉祥院六斎念仏と呼ばれていた。当時、六斎奉納は明け方まで行われ、時には翌日も奉納が行われた時代があったが、第二次世界大戦を境に衰退しはじめ、昭和 30 年代には南条六斎講のみが残ることとなる。

現在、菅原六斎講が吉祥院六斎念仏の称号を受け継いでいる。

6. 吉祥院六斎念仏と人権

吉祥院六斎念仏は江戸時代中期頃には、吉祥院地域の各大字にそれぞれ六斎講が形成され、吉祥院天満宮での六斎奉納は盛況に行われていたが、南条には六斎講がなかった。吉祥院天満宮の氏子として六斎念仏を演じ、奉納したいと願い、講を形成することになったが、「天満宮の舞台に南条を上がらせるな」と奉納させてもらえない歴史がある。そのため菅原六斎講では、六斎念仏を継承する意義に加え、お互いが認め合う、支え合う「人権文化」も重要課題に取り組んでいる。

当時、南条六斎講は、六斎念仏に関わることは差別との闘いという側面を持っていたと言える。

7. 六斎念仏の伝説

菅原六斎講は、昭和初期、男子 15 歳で青年会に加入するのが義務付けられ、青年会の活動の中で重要な位置を占めていたのが六斎念仏であり、必然的に六斎念仏に関わることになる。

六斎念仏には「ひのき舞台」と、稽古を兼ねた地蔵盆などの「まわり舞台」があり、簡単には「ひのき舞台」に上がれない。

「まわり舞台」で経験を重ね、先輩に認められ、やっと「ひのき舞台」に上がれる厳しい時代だった。また、台風で河川が氾濫し、家屋が床上まで浸水しても六斎奉納は行われた。それほど奉納行事は重要であった。

六斎奉納は東寺、清水寺、壬生寺などで行われている。また、テレビ番組にも多く出演した。

※【映像】

- ・夜のヒットスタジオ
- ・日本民謡大賞

現在、京都の六斎念仏は、京都市内 15 箇所で継承されている。

江戸時代には、40 組近い六斎講があったが、時代の流れとともに継承することが難しく、徐々に衰退し、消滅していく。



8. 吉祥院六斎念仏の継承活動

1995 年、六斎念仏の後継者育成を目指し、保護者や学校関係のサポートを得て、「吉祥院子ども六斎会」を発足。今年で 30 年になる。

子ども六斎会を卒業した高校、大学生を中心に「吉祥院六斎歴史研究会（獅子の如く）」を立ち上げる。

研究会では、六斎の歴史調査など、その報告を会報「獅子の如く」に掲載する活動の他、子ども六斎会の指導にあたっている。今年 15 年を迎えた。

子ども六斎会と研究会は、「六斎保存会をつなぐ」組織であり、子ども六斎で始めた子が、中学・高校・大学生になった時にも六斎との結びつきを保ち、将来保存会の担い手になっていく道筋を確保するために立ち上げた。

その他、もう一つ重要な取り組みは、「六斎念仏を活かした地域教育」にある。

子どもたちが地域の歴史を学び、地域への愛着を深め、伝統を大切にする心を育み、六斎を継承し、まちの活性化につなげる。

この取り組みが教育委員会、文化財保護課から評価され、各講演会で六斎の継承活動を紹介している。

講演会の他、六斎体験教室を開催し、研究会会報「獅子の如く」に掲載している。

9. 吉祥院子ども六斎会

子ども六斎練習会は、毎月 2 回開催（ふれあいサロン）。現在 18 名の子どもたちが参加し、保存会、研究会から 5 名が指導にあたる。指導は、子どもたちの自主性に任せ、お互いが教え合い、子どもたちの交流の場所になっている。

また、練習の成果発表会も行われており、2004 年、文化庁の呼びかけで後継者不足に悩む六斎保存会も賛同した「伝統文化こども教室事業」の一環で取り組まれている。

この事業の 9 年前には、すでに吉祥院子ども六斎会が取り組まれており、当初、四つ太鼓が上手く叩けなかった子が練習を積み重ねて、現在、保存会と共に六斎奉納に参加するまでになっている。

かつて女性を抑圧するような慣習が伝統文化として受け継がれてきたが、子ども六斎会の活動がこれまでの慣習も変えるきっかけになり、女子も登壇して演じるようになった。

10. 吉祥院六斎歴史資料展示室

六斎歴史資料展示室では、六斎念仏の歴史や子ども六斎の活動などの他、実際に六斎奉納で使用される貴重な鉦や太鼓、衣装などが展示している。

一丁鉦の裏側に明治 15 年の年号が刻印され、南条六斎講の 17 名の名前が刻まれていることから、明治 15 年にはすでに南条に六斎念仏が行われていたと思われる。

資料室は、企業などがフィールドワークとして研修に取り組まれている。

吉祥院小学校では、「総合的な学習の時間」でまちの魅力を再発見する学習が取り組まれ、六斎念仏を知るきっかけにもなり、子ども六斎会に加入し活動する子も出ている。

11. 差別との闘いが伝承を支えた

京都には 古（いにしえ）から多くの六斎念仏が伝えられている

しかし 長い間 ひのき舞台で踊ることを禁じられてきた地域がある

踊りたくても 教えてもらえない
悔しい思いを跳ね除けて

吉祥院六斎は重要無形民俗文化財として
地道に大人から子どもたちに伝承する

幾度となく 廃絶の危機を乗り越えて
伝えてきた六斎の灯は
絶対に消すわけにはいかない

太鼓がひびく 獅子が舞う
私たちが受け継ぐのは 吉祥院六斎念仏
そして 人として生きることを守るのだ

吉祥院六斎歴史研究会 獅子の如く

※【朗読】清水美優

よく「伝統は守るもの」と表現されがちだが、伝統は守るのではなく「つないでいくもの」、単に「守る」ことだけでなく、その文化に対する理解や歴史を通じて、次世代に引き継ぐものである。

ありがとうございました。

京都_文化研究企画

